

## ESG 説明会（2024 年 9 月 25 日） 質疑要旨

### ➤ E（環境）分野

#### アルミ板事業における CO<sub>2</sub> 削減の取組み

Q1 アルミ板の CO<sub>2</sub> 削減の取組みにおける再生地金の確保やリサイクル率の向上について、どのような時間軸で進めているのか？ また、コスト面含め、お客様の理解を得ていく必要があると思うが、低 CO<sub>2</sub> アルミ板製品の販売について今後の展望を教えてください。

A1 当社で調達するアルミ地金について 2030 年 100%グリーン化という目標を掲げて活動している。リサイクル率についても社内目標を設定しており、達成に向けて活動を進めていく。低 CO<sub>2</sub> アルミ板製品については、具体的に個別のお客様とお話している案件がいくつかあるが、全体としてはコストアップに関する交渉も含めてこれからという状況である。

Q2 同業他社もグリーン地金の確保を目指している中、調達の競争が激化するのでは？

A2 その競争に勝ち抜いて確保すべく、幅広く世界中の原料メーカー様と交渉している。

Q3 アルミ板の CO<sub>2</sub> 削減ロードマップにおいて、2030 年に Scope3 を含めて 30%削減（2013 年度比）を掲げているが、Scope1,2,3 の内訳があれば教えてください。

A3 Scope1,2,3 の取組みは資料 P46 に記載の通りだが、内訳の開示は差し控えていただく。

Q4 低 CO<sub>2</sub> アルミ板製品の商品化は他社でも行っているが、神戸製鋼独自の取組みはあるか？

A4 取組みではないが、当社には、アルミ板の生産拠点である栃木県の真岡製造所、アルミ素形材の生産拠点である三重県の大安製造所、山口県の長府製造所があり、お客様の製造工程で発生したスクラップの回収を 3 拠点のうち最適な場所で行うことが可能であり、輸送費が削減できるなど、水平リサイクルにおけるメリットが大きいのが特長だと考える。

Q5 低 CO<sub>2</sub> アルミ板製品の商品化の時期の目途を教えてください。また、第三者機関（DNV）の妥当性検証をいつ終えたのか教えてください。

A5 商品化については、今全力を挙げて進めており、近々にご理解いただきたい。第三者機関の妥当性検証は本年 8 月に受領した。

Q6 低 CO<sub>2</sub> アルミ板製品のブランド化について、鉄鋼製品を代替できるポテンシャルはあるのか？ グリーンスチールでは、特に価格許容度の厳しい電機、自動車などの分野においてマーケットの創出に苦労しているイメージだが、鉄鋼に比べ一般消費財向けも多く、価格許容度が厳しいお客様を主としているグリーンアルミのポテンシャルとリスクは？

A6 欧州での LCA 制度化、各自動車メーカー様における 2030 年度の LCA 目標や再生材使用比率の目標の開示がなされている中、当社の低 CO<sub>2</sub> アルミ板製品に興味をもっていただけるポテンシャルはあると考える。また、グリーンアルミのコストは、グリーン地金製造の際の再生可能エネルギーにかかるコスト起因であり、この価格設定についてはこれから議論がはじまるので、まだ状況は見えにくい。グリーンアルミ市場もグリーンスチール市場も黎明期という認識を持っている。

## CO<sub>2</sub>削減目標

- Q7 全社及び鉄鋼事業では Scope3 の削減目標を設定しないのか？
- A7 全社としては Scope1~3 の割合が事業によってそれぞれ異なるため、現時点では、Scope3 の割合が高いアルミ分野のみ Scope3 を含めた目標を設定している。全社的な Scope3 の目標設定時期・内容・設定方法などについては課題として認識している。鉄鋼事業については、日本鉄鋼連盟の「長期温暖化対策ビジョン」に則り目標を設定しており、Scope3 の目標設定については現時点では想定していない。今後、全社あるいは日本鉄鋼連盟の動向次第で検討する。
- Q8 技術・製品・サービスによる CO<sub>2</sub> 排出削減貢献について、今後どの分野に伸びしろがあるのか？
- A8 今後は、MIDREX<sup>®</sup>プロセスや圧縮機等の機械系の販売が増えることによる貢献をはじめ、ハイテンやアルミ関連の様々な製品による貢献の部分も増えていくと見込んでおり、2030 年やその先の目標達成に向けての期待値は高いと考えている。
- Q9 生産プロセスにおける CO<sub>2</sub> 削減について、今後どのようなロードマップ・時間軸になるか解説いただきたい。
- A9 現時点では、グリーンスチール市場の成長速度・度合を注視しながら、高炉への HBI の投入などによる CO<sub>2</sub> 削減をすすめ、2030 年目標達成を目指している状況。また、2050 年に向けては、革新的な大型電気炉の導入検討等を進めているが、いずれも経済性などを考慮しながら時間軸を含めて判断していく。

## Kobenable<sup>®</sup> Steel

- Q10 Kobenable<sup>®</sup>Steel の商品化をしてから、2 年ほど経ったが、お客様からの引き合い状況や、出荷数量の推移、プレミアム価格の付与等について具体的に教えてほしい。
- A10 お客様での環境価値を経済価値に変えるためには、お客様の先の最終製品への価格転嫁が必要となるが、皆様の理解が十分に得られていないと感じている。グリーンスチール市場については、日本鉄鋼連盟を中心に、経済産業省とも相談しながら、2030 年にグリーンスチール市場 1000 万 t という目標を掲げ、マーケット創出に向け動いていると理解している。市場の黎明期においては、政府支援が不可欠であり、その 1 つとして革新電気炉の生産高に対する税制優遇の話もあるが、電気炉への投資を判断するにあたり、それだけでは十分なレベルではなく、まだ道は険しい。  
Kobenable<sup>®</sup>Steel の本格的な普及には、もう暫く時間が必要と考えている。

## ➤ S（社会）分野

### 人材戦略

Q11 新入社員の採用において、広告宣伝強化などを行っているが、効果は出ているか？

A11 応募人数は確実に増えており、説明会などに参加される学生からは、当社に興味を持ったきっかけとして CM を挙げられることも多いので、CM を認知いただいているのは間違いない。その他、技術系学生向けインターンシップの強化を図っており、今年度は受入枠を大幅に増やし、多くの方を受け入れることができた。企業研究、企業選びの早期化が顕著になっており、当社としてもより早いうちから興味を持っていただけるような活動をさらに広げていきたい。

### 安全衛生

Q12 休業災害度数率 0.31 は、高炉セクターの中で高い水準になると思うが、その要因と今後改善していくための取組みについて教えてほしい。また、事業別で度数率に差はあるのか？

A12 要因の一つとして、工事業者様の災害が増えている。入構教育をはじめ様々な施策を行っているが、十分浸透していない。これまでは教育をはじめ人に頼る面が多かったが、他社とも情報交換を図りながら、機械安全に関する施策を高度化する取組みを進めている。当社内事業所においては、鉄鋼および素形材では、製造設備に回転・摺動するものが多く、挟まれ事故が発生していることから、休業災害度数率が他事業と比べて高めになっている。一方で、機械・エンジニアリングではあまり災害は発生していない。

## ➤ G（ガバナンス）分野

### 役員報酬制度

Q13 役員報酬における ESG 指標について、担当分野が違う中で評価の公平性は保てるのか？

A13 今回導入した ESG 指標は、担当分野が多岐に亘る中、当社の外部評価を一律に株式報酬に反映する方法。一方で、役員個人の個人評価の中で、各人の担当分野における成果を評価している。役員の評価制度については今後より良いものにすべく見直すこともあり得る。

以上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されまことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。